

トヨタは責任をとれ！制度財源負担の決断を！

全国公害患者の連合会らは2月18日、トヨタ自動車東京本社に対し、全国の公害患者救済の「医療費制度創設」に賛同し、財源負担を決断するよう要請行動をおこないました。

要請団報告では、今までになく丁寧な対応であり、「国から話しがあれば“検討する”」という回答。“検討”を制度創設“決断”にさせるには国とトヨタに向けた闘いが重要。患者さんも、支援する自分も体力ぎりぎりの限界を賭けた挑戦になっています。

(世田谷あおぞらの会 亀岡良夫)



ひさびさのトヨタ前での集会に胸おどり、「トヨタは救済制度に支援せよ！」と大きな声で叫びました。全国から、そして東京の被害者の人たち、支援の団体みんなで上げた握りこぶしに新しい取り組みのスタートに力強さを感じました。

私たち葛飾青空の会では柴又帝釈天前で救済制度つくれ！の宣伝行動を行っていますが、この日の行動を力に、さらに地域での取り組みを強めて行きます。(葛飾青空の会 吉野五郎)

品川では東京のトップを切って活動しようと行動しています。品川労協は「八潮患者会・岩崎さんの要請を受け」、11月の定期大会で「特別決議」を採択し、12月20日には柴山事務局長が代表で「トヨタ要請」(決議の執行)を行っていただきました。2・18大気汚染公害調停行動はNHKの放映という大成功を勝ち取りました。品川・大田新年会合で意思統一を行い、二桁の参加となりました。ひき続き品川報告会等「地道な活動」を展開してゆきます。(品川あおぞら連絡会 大島文雄)

いよいよ「公害調停」の運動がスタートしました。2月18日、汚染原因者である自動車メーカーのトップメーカー、トヨタの東京本社前に患者、支援者が結集しました。

トヨタ東京本社は文京区にあります。「東京大気裁判」の時にもこの場所で何回も行動を行いました。その時のことが鮮明によみがえりました。小雪の降る日に宣伝カーの上から、文京区労協副議長で、都立駒込病院の看護師、柳美智子さんが切々と「患者の苦しみを理解せよ」と訴えたり、東京土建の組合員の手でテントが張られ、徹夜の座り込みが敢行されたり、ベニヤ板一枚に1文字ぐらいのスローガンを本社ビルに向けて並べたり(この作戦は警察の妨害で中止になったかもしれませんが)等々、文京区内の労働組合は大挙して支援にあたりました。

いま労働組合の力は減退していますが、「大気汚染は命の問題」力がないなどと言ってはおれません。都民だけでなく全国の患者救済の新制度を国とメーカーの負担で作らせるために、労働組合を柱にした「文京あおぞら連絡会」も改めて決意を込めて支援の闘いを盛り上げていきたいと思えます。

一方トヨタも前回の裁判で学習したのか、1月28日に「文京あおぞらの会」が独自に行った要請行動では、面会を拒否するなどの事はなく、総務の担当者が対応しました。同行した村崎弁護士は果敢に食い下がり、「再度要請に来るが、誠実に対応せよ」ときつく注文しました。

(文京あおぞら連絡会会長 山田三平)

自動車メーカーには怒りを、患者にはいたわりを！

2019年2月18日、トヨタ自動車東京本社前で公害調停の申入れと抗議があり参加した。大気汚染を作出した自動車メーカーと国は、喘息患者が声を挙げなければなにもしてこなかった。喘息は対症療法をとるしかない。医療費のために働いているようなものだという喘息患者の言葉に胸が痛む。大気汚染という原因が改善されないかぎり、喘息患者は医療費を必要とする。公害の「汚染者負担原則」にもとづき、東京、川崎に限定しない喘息患者救済制度の早期設立を望む。

(東京民主医療機関連合会 松本宣行)